

◆編集・発行：
ネットワーク・市民アーカイブ
◆tel・fax: 042-540-1663 (事務局)
tel・fax: 042-536-5535 (市民アーカイブ多摩)
E-mail: simin-siryu@nifty.com
www.c-archive.jp
〒190-0022 立川市錦町 3-1-28-301 (事務局)
◆正会員 1 口 6000 円、賛助会員 1 口 3000 円 / 年
ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226
口座名：市民アーカイブ



アーカイブ 通信 No.8

第2期 緑蔭トーク報告

四季折々の樹木に囲まれた市民アーカイブ多摩では、今年度も4月から緑蔭トークを開催しています。今号では第2回と7月(特別編)の報告を掲載します。

第2回 6月11日

砂川闘争と 美術家たち

武居利史さん
(府中市美術館学芸員)



なった。立川基地も取材対象となり、池田龍雄のルポが『人民文学』に掲載され、石川県内灘村をはじめ反基地闘争が全国的に高まりつつあった。

◇「砂川闘争」と美術家の支援

1955年5月、砂川町(現立川市北部)で米軍基地拡張に反対する住民運動「砂川闘争」が起きると、

美術史の研究は、作品を対象とする様式史の見方が基本となるため、美術家の社会への関わりは見過こされがちだ。社会運動に着目し、美術史をとらえ直す必要も感じており、「砂川闘争」について美術の視点から考えている。

◇戦後の美術と多摩・立川

戦後美術界の民主化の中で、「日本美術会」や「前衛美術会」が発足し、新しい発表場所が生まれた。占領軍の下で政治の反動化が進み、朝鮮戦争を背景に単独講和で安保条約が結ばれた。

その頃、奥多摩で小河内文化工作隊の活動があり、青年美術家連合「ニッポン展」がルポルタージュ絵画の拠点と

日本美術会を中心とした支援の動きが活発化した。木版画で社会問題を訴える版画運動では、箕田源二郎が反対同盟のポスターを制作し、戦前のプロレタリア運動の流れを汲む新居広治や小野忠重らが参加した。自由美術の井上長三郎、行動美術の田中忠雄は油彩を発表した。国民文化会議で活躍した新海覚雄は、住民らの肖像をスケッチした連



箕田源二郎(全地に杭は打たれても心に杭は打たれない)56年頃印刷・紙個人蔵



新海覚雄(行動隊長 青木市五郎)55、56年水彩・コンテ・紙 立川市歴史民俗資料館

道場親信の仕事と私たち

当会設立時からの会員で元運営委員の道場親信さん(和光大学教授)が逝去されました。

ご自身も学生時代からミニコミをつくり、研究者としては、1950年代のサークル文化運動や60～70年代の住民運動など広く社会運動を研究され、多くの著書も残されています。当時の運動を記録するにあたっては、資料収集とヒアリングを丁寧にする方でした。

当会では道場さんを偲んでその仕事と人柄を振り返り、追悼しつつ、市民アーカイブの意味を再考するセミナーを開催します。

2017年1月9日(月・祝)
午後1時30分～4時30分
会場：一橋大学職員集会所(国立駅徒歩8分)
お話：「成田空港問題“歴史伝承委員会”で残したこと」(仮)
波多野ゆき枝さん(NAA歴史伝承委員会)
他、道場さんと関係の深かった方に依頼中
・資料代500円(学生無料)・申込み不要

作、実験的リトグラフを残した。まつやまふみおは『アカハタ』に諷刺漫画を描いた。

◇青年美術家、文化人の訪問

56年3月、砂川中学校講堂で「砂川美術展」が開かれ、移動も行われた。日本大学芸術学部を卒業した中村宏が、今日ルポルタージュ絵画の傑作とされる油彩『砂川五番』を描いた。基地問題文化人懇談会から、清水幾太郎、牛原虚彦、中野好夫、藤原審爾、松岡洋子、佐藤忠良、深尾須磨子、朝倉撰、神崎清、松島栄一、井汲卓一、堀真琴、広池秋子、中本たか子、土方与志、黒田秀俊、木下順二、山本安英らが現地訪問した。

◇美術学生の体験と60年安保

日本労働組合総評議会(総評)に加え、全日本学生自治会総連合(全学連)が支援を決めると、都内の学生が大量参加した。武蔵野美術学校、女子美術大学、東京藝術大学から美術学生も加わる。藝大の篠原有司男も参加したが、学生の作品はほとんど残っていない。武蔵野美校から、吉村益

信、風倉匠、赤瀬川原平、秋山祐徳太子らが参加した。彼らは60年安保でネオ・ダダイズム・オルガナイザーズを結成し、その特徴は「直接行動」で砂川の体験が影響している。中村宏、山下菊二、桂川寛らは「六月行動委員会」に参加した。

◇「砂川」の文化史的意義

「砂川闘争」の文化史的意義の一つは、社会に関与する芸術の興隆だ。「芸術の革命」と「革命の芸術」といった二律背反的ディレンマは表面化していない。二つは、多様な文化ジャ

ナルの協働があり、同一テーマで運動が広がって越境がおき、新しい表現が創造された。三つは、記録や報道という時代精神の発露で、歴史的な運動や事件を軸にドキュメンタリーやルポルタージュの重要な成果が生み出された。(武居・記)

緑蔭トーク 特別編 7月29日

「働く人の歴史を

つなぐ

大阪産業労働資料館

エル・ライブラリー

谷合佳代子さん(公財)大阪社会運動協会



「大阪産業労働資料館 エル・ライブラリー(以下、資料館)」を新しく開館するにあたって、「設立の趣旨」を皆で書いた。労働資

2008年2月、大阪府では新しく着任した橋下徹知事により、財政再建の名の下に施設の売却や補助金打ち切り政策が急激に実施された。その最初の施設が「大阪府労働情報総合プラザ」(08年7月閉館)である。

00年から同プラザを受託運営していた財団法人大阪社会運動協会(社運協)は、同協会の資料室「大阪社会運動資料センター」の補助金打ち切りも重なったが、総合プラザの廃業資料も受け入れ、08年10月に自力でリニューアルオープンした。

当会会員で資料館館長の谷合さんが来京された機会を利用して、資料館運営の知恵や工夫を急遽、話していた。 (編集部)

料の収集提供はもちろんのこと、「地域の記憶の場」として、働く人々の知る権利を守り地域住民のアイデンティティ形成に役立つことも宣言。地域にいかに必要な図書館になるかを一つの使命とした。

◇認知度をあげ、支援者を増やす

行政の施設と補助金約2千万円が廃止され、「日本一貧乏な図書館」として最初にしなければならなかったのは、経費節減である。

運営組織である社運協は、社会運動・労働運動資料の収集・保全、労働史編纂・刊行等を目的に、1978年に労働組

合・労働福祉事業団体・研究者・弁護士が集って設立した団体で、組合等からの寄付が年間1千万円。資料館運営に、家賃共益費と光熱水費600万円はどうしても拠出しなければならず、削られるのは人件費のみ。職員を減らし、館長の私、館長補佐の千本沢子は無給を覚悟し、できるところまで頑張る決意で始めた。人手と財源確保のために、ボランティアスタッフや会員・支援者の募集に駆け回った。集金のためには、あらゆる機会にも参加した。現在サポート会員は900人近くに、会員からの寄付は年間600万円になっている。

◇何でも論じ、広報活動

大阪府の施設として閉館してから新たに開館するまで2か月と少し。足の踏み場もないほどの資料が積まれていたが、09年3月、廃棄されようとした産業資料の救出作戦も実行した。「国立産業技術史博物館」設立計画がとん挫し、それまでに収集されていた資料2万点が廃棄されるという話を聞き、2週間の間にボランティアを募り、とにかく運べるだけの資料と工具・機械を資料館に運び入れた。資料が廃棄されるとい話を聞くと、私も千本も動かすにはいられない。運んできた工具が何かわからないまま、説明もつけずに展示会を開催、見学者の一人であった自分の父親の「ろくろ旋盤や」のひと言で、何の機械か分かったこともあった。

とにかく自分たちの持っているものは、すべて公開して活用してもらう、そしてそれが広報活動にもつながっている。所蔵しているビデオを使っての無料上映会、古本市、カンパでもらった文房具のバザー、閉館後の学習会「ラーニングコモンズ」、「人が来る」「何かある」施設づくりを心がけている。宣伝のために大阪マラソンも走った。

インターネットも活用し、公式サイトはもちろん、ブログ、ツイッター、Facebookも使っている。資料の雑誌記事索引をブログに掲載することで、検索サイトでヒットしやすくなる。

◇多くの人の知恵に助けられて

資料整理等の日常の大切な仕事は、千本やボランティアが携わってくれているので、私はいかに資料を利用してもらうかという営業活動を担当している。最も有効なのは、大学教員とのネットワークを通じて、資料研究のプロジェクトを組んでもらうこと。当会から研究費を拠出する余裕はなく、研究に関わる費用はすべて外部資金(大学の補助金、文科省の科研費、財団法人などの助成金)を活用してもらい、これまで研究・教育プロジェクトを7本実施してきた。資料を利用してもらえるだけでなく、研究成果は社会に還元できるし、広報にもなり、最少の費用で大きな効果をあげられる。多くの人の知恵に助けられている。

◇資料への愛と誇り

とにかく、人とのつながりで、いろいろなことが可能になる。ネットで知ってもらい、講演に呼ばれればどこでも行くし、マスコミやミニコミで取り上げてもらえると、新しい出会いがある。それが資料保存につながり、活用にもいきこくる。

資料への愛と誇りが、資料館の仕事を支えているし、苦境によって人間を鍛えられている。思っている。

◆質疑応答

Q 資料館を行政が運営するとまた言ってきたら、OKするか？

が、晴天にも恵まれ、総勢14人の参加があった。当日は、NAA(成田空港)歴史伝承委員会メンバーで小川プロダクションにも関わった波多野ゆき枝さん、同じくNAA歴史伝承委員会メンバーで長く資料保存公開の活動を支えてこられた新井勝紘さんに案内人をお願いし、貴重なお話を伺えた。

◆空と大地の歴史館

初めに、成田空港に隣接する「成田空港 空と大地の歴史館」を訪問(詳細は5頁参照)。

地元の多大な犠牲と厳しい対立の上に作られた空港の過去・現在・未来をどう描き出すか。今なお意見の食い違いがある中、この作業が決して容易ではないことを、コーナーごとに微妙に食い違う展示のトーンからも感じ取ることができた。しかしそれでも、実際の資料は見る者に対して、単なる情報以上の何かを物語る力を確かにもつていた。

市民活動資料には、それぞれの時代をそれぞれの場所で生き抜いた人びとの喜び、苦しみ、怒り、理想が、さまざまに込められている。そうした資料が生まれた「現場」はいまどうなっているのか。2016年7月10日、「成田空港反対闘争の現地と資料」というテーマで、「現場」を訪ねるフィールド企画を催した。

朝10時半には芝山町現地集合という早起き企画だった



谷合 行政がお金は出すべき事業でも、運営は行政組織ではもうできない時代になっていると思う。

Q 家賃等で600万円というのに驚いた。もう少し安いところへ引っ越すという選択肢は考えなかったのか？

別棟にも段ボール箱収納の形で大量に保管。何とか場所が確保されているとはいえず、決して安泰とは言えないようだった。しかし資料はやはり地元にあるのが望ましい。歴史館の名誉館長も務める新井さんは、資料整理を兼ね分析に携わる若手研究者がぜひ出てほしい、と話された。

◆旧辺田部落を歩きながら

引き続き、芝山町の旧辺田部落に移動し、緑豊かな台地を歩きながら、村の暮らしと闘争の記憶をゆっくりとたどった。辺田は、空港予定地のうち、集落として数百年の歴史をもつ古村のひとつ。B滑走路の延長上に位置していたため多数の住民が反対闘争に立ち上がり、また三里塚の記録映画を撮影した小川プロ



展示写真を説明する波多野ゆき枝さん

谷合 これまで通り、使ってもらえる便利な場所を最優先に考えたので、引っ越しは考えなかった。

もここ辺田に拠点を置いた。消滅の危機に瀕した辺田集落から闘争に加わった三ノ宮文男さんは、東峰十字路事件(反対派との衝突で3人の機動隊員が死亡)から約半月後、村の神社で自ら命を絶った。「空港問題などなかったら、俺も今ごろ嫁さんなんかもらって、りっぱに百姓やっていけたと思っていまして。」長文の遺書には切々とした思いが綴られていた。



旧辺田部落内の小川プロダクション跡地

◆現地から未来を構想する

LCC(格安航空会社)受け入れで新たな拡張もうわさされるなど、成田空港問題は、いまも終わってはいない。過ぎ去った過去をただ振り返るためではなく、未来を構想するためにこそ、人びとの生きた証をいまに伝える資料は価値をもつということ。この点を実感できたのは、やはり「現地」ゆえであったと思う。終了後は成田祇園祭で賑わう成田市内に場所を移し、感想を共有する機会をもった。

ご案内くださった波多野ゆき枝さん、新井勝紘さんに改めて感謝を申し上げます。

「ネットワーク・市民アーカイブ」では、市民活動資料の意義を再確認するため、今後も機会をとらえ「現場を訪ねる」試みを継続していきたいと思っている。(町村敬志 運営委員)

※NAA歴史伝承委員会編「展示図録 フロンティアーズ」Naria since 1966 (2015年、36頁)

成田空港 空と大地の歴史館

闘争を語りつつ、資料保存の拠点として

京成上野駅から京成本線、柴山鉄道線を乗り継ぎ約1時間30分、成田空港のすぐ隣にある芝山千代田駅に到着する。ここから徒歩30分ほど、千葉県芝山町にあるのが2011年6月に開館した成田空港空と大地の歴史館(以下、「歴史館」写真下)である。



(三里塚)に建設することが突如として決定される。住民に何の相談もなしに発表された建設計画に対し、農民たちが中心となって反対運動が始まった。

三里塚には戦前からの農家に加えて、戦後、様々な人が農地

航空技術の展示を目的として1989年に開館した航空科学博物館に隣設されている。航空科学博物館は旅客機の野外展示等外見的にもにぎやかな展示が特徴だが、駐車場を挟んで南側にある歴史館は静かにたたずむと言った感じの資料館である。

◇成田空港建設反対闘争から「和解」

1966年、高度経済成長に伴い、発着数が飽和状態に達した羽田空港に代わる空港(新東京国際空港)を千葉県成田市

に円卓会議が持たれ、幾度かシンポジウムが実施された。行政側は運動への弾圧に対する反省をし、それぞれが「対等」な立場での討論が目指された。

一連の会議の成果として「成田空港がどのような経緯を経て今日の状態に至っているか、(長い対立から地域とともに歩むに至った経緯)を明らかにする」、「成田空港の歴史に関わってきた様々な立場の方々の苦勞、苦闘、想いを伝える」ことをコンセプトとして建設されたのが歴史館である。

◇静かな外観にインパクトのある展示

おおむね八角形の形をした展示室では、①戦後の開拓期の三里塚、②空港建設が決まったころの時代背景、③反対運動の始まり、④

という9つの展示が常設展示として行われ、闘争の時代から現在までを時系列に追うことができる。

展示の中でもやはり一番インパクトがあるのが、反対闘争が激しく闘われた時期に使われた様々な資料である。反対同盟の関連の紙資料として「文男さんの長い遺書、請願書等がある。また、モノ資料としてはヘルメットや火炎瓶、機動隊が来たことを知らせるために打ち鳴らした大きなドラム缶などが展示されている(写真左)。闘争の生々しさが見てい



◇多くの非展示資料

インパクトのある展示を行っている一方で大きな課題もあるとのことである。開館した11年現在で約5万5千点に及ぶ資料が収蔵されている。多くの資料は歴史館が集めなければ廃棄されてしまった資料である。しかし、



残念ながら展示室の広さの問題もあり、一部は今年出来た小さな資料室に収蔵されているものの、多くの資料は展示されることなく、3か所の「収蔵庫」(写真右はそのうちの1つ)に保管されたままになっている(一部未整理)。目録を作成するなどして内容の把握に努めているものの、人員や予算の問題もあり、まだまだ全体把握や公開には至っていない。幅広い担い手から集められた資料を目にするのができ、展示に圧倒される一方、社会運動資料を残すことの難しさを痛感した訪問であった。(長島祐基 Ⅱ 会員・ボランティアスタッフ)

成田空港 空と大地の歴史館

- ・所在地：千葉県山武郡芝山町 岩山 113-2
- ・電話：0479-78-2501
- ・FAX：0479-78-2502
- ・E-Mail：rekishi@naa.jp
- ・開館時間：10～17時
- ・入館料：無料
- ・休館日：月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日

※あなたのまちの資料館情報をお寄せください。

市民アーカイブ多摩の資料棚から⑤

〈原発〉

2011年3月の東京電力福島第一原発事故(以下、福一事故)から5年半余り過ぎた今も、約9万人の福島県民が避難生活を強いられています。それだけでなく、子どもの甲状腺がんが悪性疑いを含め174人(福島県民健康調査/今年9月発表)と増加の一途をたどっています。賠償基準は被害者の生活再建、人間の復興には程遠く、福一からの放射性物質拡散や汚染水問題も解決しない中で、国による原発再稼働や避難者の汚染地域への帰還政策がすすめられています。これらに対し被害者自身による救済を求める運動や市民による脱原発活動が盛んになり、それは当館収集のミニコミにも反映されています。

誌、個人1誌) あります。市民の活動も福一事故後には新たな動き(特徴)がありミニコミの内容にも表れています。

事故以前は、

① 原発や核燃サイクル関連施設の立地(または計画)地域住民や都市住民の反対運動や訴訟の記録が多くを占めています。

事故後は、それらに加えて

② 各地原発の再稼働阻止をめざす運動や訴訟

③ 被害者自身による責任追及や損害賠償を求める運動と、それを支援する市民の活動

④ 被ばくした子どもたちを短期間被ばく環境から離すための保養支援や、環境や食品などの放射線測定活動

が生まれています。

このような時期別の特徴をふまえ、①~④に分けていくつかのミニコミを紹介いたします。

■ 原発政策の問題

① 福一事故以前の創刊では、この分野の草分け的存在といえる「原子力資料情報室」発行『原子力情報室通信』(1987年創刊)があります。核科学者の故・高木仁三郎氏が始めたシン

クタンクで、原子力業界からは独立した立場を保ち、その時どきの動向と課題を踏まえて反原発・脱原発に役立つ情報を一般向けに提供しています。

『高木基金だより』(02年創刊/高木仁三郎市民科学基金)は、高木氏の遺産や一般からの寄付をもとに分野を問わず市民や若手研究者の調査研究に助成する団体で、福一事故後は事故原因解明や脱原発政策立案につながる調査研究への支援が特徴的です。助成対象者の調査研究の概要報

告などを掲載しています。

『脱原発政策実現全国ネットワークNEWS』(99年創刊)は各地の運動が交流しながら、国や電力会社に脱原発をもとめてきた記録です。

■ 地元住民による闘い

各地の原発地元住民の反対運動や訴訟団体の会報や機関紙は、16点を保存しています。

核燃サイクル関連で息の長い取り組みでは、「核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団」の『原告団ニュース』(88年創刊)と「ストップ・ザ・もんじゅ」発行の『STOPザもんじゅ』(90年創刊)があります。前者は、六ヶ所村の再処理施設などの事業許可取消を求め、後者は高速増殖炉もんじゅの工事中から反対行動、署名活動、裁判闘争に取り組みながら関西住民が発行を続けています。

■ 裁判で止める

国内では、係争中の原発裁判が31(16年9月末現在/脱原発訴訟弁護団HPより)ありますが、当館保存ミニコミも、伊方(愛媛県)や玄海(佐賀県)など現在係争中の原発関連が中心です。いずれも公判内容(原告と、被告の国や電力会社の主張)、弁護団や原告のコメント、支援する市民の活動などを載せています。

福井県若狭湾岸は、もんじゅの他にも大飯や高浜など4つの原発サイト(計15基)がひしめく原発密集地ですが、『かたくり通信』(福井から原発を止める裁判の会)では、14年に福井地裁で大飯原発3、4号機運転差止判決を得た活動経過などを、また『福井原発訴訟を支える会ニュース』では、原子力規制委員会が福一事故後の新規制基準をクリアしたと認めて再稼働したばかりの高浜原発3、4号機を、16年に大津地裁の仮処分決定で止めた取り組みをたどることができます。

■ 情報をつないで再稼働阻止

② 福一事故後に市民の間に高まった脱原発運動の焦点は、いったん国内の全基が止まった原発の再稼働阻止ですが、『経産省前テント広場ニュース』『再稼働阻止全国ネットワークニュース』やたんぼ舎の『たんぼぼ』『週刊金曜ピラ』は、市民や原発地元の団体が手を組んでの取り組みを刻々と伝えていきます。川内原発(鹿児島県)の再稼働阻止では「川内の家」『脱原発川内テント』の会報があります。

■ 被ばくした市民・村から

③ 福一事故の被害者自身の取り組みでは、「原発被害糾弾館 村民救済申立団」(原子力損害賠償紛争解決センター)に飯館村民



の約半数が集団申し立て、「井戸川裁判を支える会」(前双葉町長が、被ばくさせた国、東電の法的責任を問う裁判)「南相馬・避難20ミリシーベルト撤回訴訟支援の会」(法令で定めた公衆の年間被ばく限度が1mSvなのに、避難指示解除、避難勧奨解除の基準を年20mSvとする国を提訴)、「子ども脱被ばく裁判の会」(被ばくの心配ない環境で教育を受ける権利確認、無用な被ばくをさせた国、福島県の責任を問う裁判)などの会報があります。

■短期間でも保養を

④チェルノブイリ事故汚染地帯のウクライナなどでは、国が子どもたちを一定期間被ばく環境から遠ざける集団疎開(保養)事業を事故から30年たった今も継続しており、保養が子どもの体内に蓄積された放射性物質の代謝を促進し、免疫力を回復させることが臨床的に確かめられています。国が取り組まない日本では、市民から寄付を募り、春夏冬の休み期間などに子どもたちを数日間招待する保養活動に取り組む団体が、約230(311受入全国協議会など調べ)ありますが、最近

資金難から先細り傾向にありま

す。当館には、保養のために通年子どもたちを受け入れる「沖縄・球美の里」を資金的にサポートする「未来の福島子ども基金」のほか、札幌、佐渡島、埼玉長瀬に保養の家を作った各団体、福島の子どもの留学を受け入れる「まつも子ども留学基金」などの会報があります。

■被ばく労働、チェルノブイリも

このほか特徴的なものとして「福玉だより」(福島から埼玉への避難者に必要な情報提供)、

『被ばく労働を考えるネットワーク通信』(原発労働者を支援)、『ノーニクス・アジアフォーラム通信』(アジア各国の原発運動交流誌)、福島県白河で事故後に市民がたちあげた「原発災害情報センター」の『ニュース』、チェルノブイリ事故の子どもの治療や保養を今も支援する「日本チェルノブイリ連帯基金」「チェルノブイリ子ども基金」の会報などがあります。

「命どう宝」「孫子にツケを残さず」…この当たり前に逆行し続ける「原発の世」。それに悼差す人々の並々ならぬ決意と努力

が、紹介したこれらミニコミから伝わってきます。近年、市民団体の活動はWEBでもその多くが確認でき、あわせて利用できますが、会報などの掲載は少なく、しかも掲載の永続性が保証されているとは限りません。

当館にある、福一事故被害者支援や子ども保養の記録はまだごく一部ですが、市民による活動記録が散逸しないうちに、数多く収集保存するのが今後の課題と思われま

私と活動6 市民資料

偶然と邂逅を重ねながら

三浦 健(品川図書館障害者サービス室)

□住民図書館と丸山館長

「私と市民活動資料」というテーマで何か書くとすれば、住民図書館との関わりから書くのが順当だろう。当時目黒にあった住民図書館に、私をはじめ足を踏み入れたのは、確か1985年

べたものか、書架の前で所在なげにしていたところ、丸山尚館長が声をかけてくれた。この時の話では、残念ながらここにはないが、参考になりそうな資料が入ったら連絡する、ということだった。

□宝物はダンボールの中に

しばらくして自宅に丸山館長から直々に電話が入った。池子の反対運動を担った「自然と子供を守る会」が出していた2種類の機関誌がまとめて寄贈されたのでぜひ見に来て、と。これには驚いた。そ

1993年に『ミニコミ総目録』が出た後のいつだったか、住民図書館の開館当番をしていて、ある学生が『総目録』に載っている資料を見た

□将来に評価をゆだねる

いつぞや私は、住民図書館を「現代の破れ土蔵」と称した

ことがある。かの五日市憲法が多摩の土蔵から見出された事跡にあやかっていたものが、実際名もない民衆資料が後世に伝えられ、見出されるまでには、多くの偶然とともに、いざという時にその価値に気づける人との邂逅に左右される。今の世の中、短兵急に結果が出るもの、そのためのノウハウばかりに価値が置かれがちだが、それにもかかわらず、遠い将来に評価をゆだねる気持ちで市民資料に取り組む人たちの輪が少しでも広がればと、ささやかな希望を託したい。

(みうら・たけし 会員)

アーカイブ多摩 目録

◆原発反対運動資料の充実

本紙6頁にも紹介しましたが、ボランティアスタッフがの熱心な資料寄贈依頼のおかげで、原発関係のミニコミが充実してきました。現在75タイトルが並びます。全国各地に点在する原発の存在問題はもちろん、3・11以降、多くの被曝者を実際に出したという事実は今さら愕然とします。マスコミだけでは伝わってこない現場からの声を多くの人に読んでほしいです。

◆入力が一と段落?

2014年4月に開館して以降、この間、開館日(≡資料整理日)に絶対欠かせない作業の一つがミニコミ各号の入力でした。2年半経って、初めて「入力するミニコミが無くなった!」

という状況になり、当番&ボランティア一同びつくりしています。これまで、入力しないで蓄積されてきたものに加え、新しく届くものもあり、いつでも入力のミニコミボックスはいっぱいだったのです。「やつと追いついた!」。嬉しい悲鳴でした。

◆電磁波関係資料の仮リスト

2015年春に「ガウスネットワーク」の懸樋さんから寄贈いただいた電磁波関係の資料(ダンボール18箱)の資料内容把握が終わり、仮リストの作成が、ボランティアスタッフの尽力でほぼ終わりました。資料点数910点、「ガウスネットワーク」資料の他、「電磁波関係の調査・研究資料」、「全国各地の電磁波反対運動資料」、「映像資料」などです。今後は配架・閲覧方法を検討していきますので、活用していただけたらと思います。

運営委員会など

- 6月11日 第2期緑蔭トーク②開催。参加者15人。
- 6月17日 第3回運営委員会。参加者7人。会員・カンパ者、当番確認、利用者対応等報告、原稿依頼、総会反省、部会決め、今年度検討。
- 7月10日 シリーズ「現場を訪ねる①成田闘争の地」。参加者16人。
- 7月15日 第4回運営委員会。参加者6人。会員・カンパ者、当番確認、資料寄贈依頼対応、来館者報告、緑蔭トーク特別編、U30会員、40・50番代の分類提案。
- 7月27日 第2期緑蔭トーク〈特別編開催。参加者15人。〉
- 8月31日 第5回運営委員会。参加者7人。会員・カンパ者、当番確認、真夏の資料館報告、資料寄贈対応、原稿執筆、各部会から。
- 9月10日 第2期緑蔭トーク③開催。参加者10人。
- 9月16日 第6回運営委員会。参加者6人。会員・カンパ者、当番確認、年度途中人会について、今後の催し等企画、広報部提案検討。

緑蔭トーク参加者の声

- 市民アーカイブ多摩で谷合さんのお話を聞くことの意義を感じた。
- 谷合さんは「そこに資料があるから」で前へ前へ進んでこられたという印象でした。設立のきっかけが、大阪が橋下知事、東京が石原知事の時、両方ともトップの方針で決められてしまったのが共通なのが悔しい。
- 感謝と敬意を表します。お陰様ですてきな時間でした。
- 古民家というのはとても雰囲気が良いですね。多摩っぽいと思いました。

カンパありがとう

大原俊秀、高垣正仁、高木恒一、西野敏子、波多野ゆき枝、前田文恵、松野哲二、山添路子、匿名2人、来館者の皆様(2016.1.30敬称略)

会員数(2016.9)

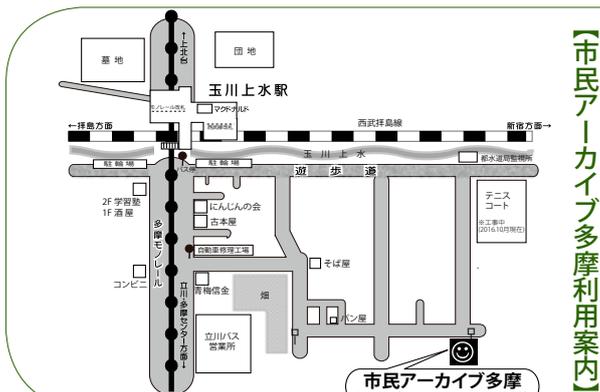
- 131人(正会員62、賛助会員69)
- ◆新規入会ありがとつ
- ・賛助会員 馬場良子さん

道場親信さん

16年9月14日胆管がんのため逝去されました。享年49歳。06年当会活動開始当初からの会員で、06~09年まで運営委員を務められました。ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

10年前には雪をつかむよつな話だった資料館が現実のものとなり、開館から2年半が過ぎました。この歳月は、イベント等への参加や通信を読んでくださった皆様が会員やボランティアとして、または、カンパを寄せて支えてくださった...の積み重ねでした。開館を維持するための人手と資金集めは、常に課題。次の10年も宜しくお願いします。(湯・増・江・鈴)



- ・開館日：毎週水曜日、第2・4土曜日(8月中旬・年末年始の休館あり)
- ・開館時間：午後1時~4時 ・入館カンパ：100円~
- ・所在地：東京都立川市幸町5-9-6-7 (多摩モノレール、西武拝島線「玉川上水駅」南側徒歩8分)
- ・電話& fax：042-536-5535 (電話は開館中のみ)
- ・見られる資料：2002年以降に市民活動団体や個人が発行するミニコミ(通信や会報など)1400タイトルほか
- ・ホームページにミニコミのタイトル、発行団体を掲載しています。 www.c-archive.jp